



## &lt;研修レポート&gt;

## H18年度まちづくり：ユニバーサルデザイン研修

日立市役所 都市政策課 会沢 士

平成18年10月4日(水)～6日(金)までの3日間、  
全国市町村国際文化研修所(滋賀県)において、戦  
略的政策形成型研修「まちづくり：ユニバーサルデ  
ザイン」を受講しました。

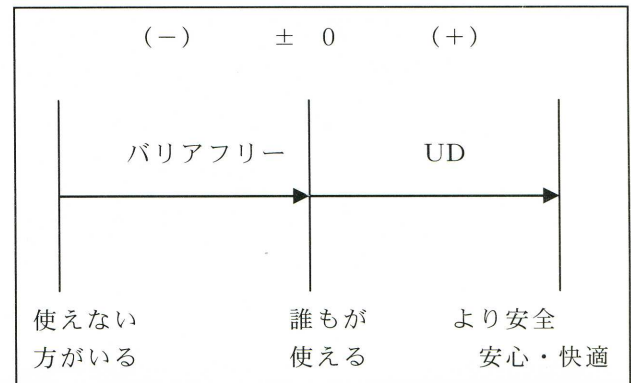
UD(ユニバーサルデザイン)とは：  
年齢、性別、国籍、個人の能力にかか  
わらず、すべての人々が可能な限り、  
環境や製品を利用できるようにするデ  
ザイン、その考え方、または、プロセ  
スや手法をいう。

○ 日立市は、平成12年11月に施行された、「高齢  
者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動  
の円滑化の促進に関する法律(交通バリアフリー  
法)」に基づき、日立市交通バリアフリー基本構  
想(H15.3)及び特定事業計画(H18.3)を策定し、  
「誰もが安心、安全、快適に移動できる人にやさ  
しいまちづくり」の実現を目指しています。

今回の研修では、バリアフリーからさらに発展  
した思想として位置付けられている、ユニバー  
サルデザイン(以下、UD)の基本的考え方につ  
いての講義を受けるとともに、課題演習におい  
ては、「市民参画によるUDまちづくり」につ  
いてグループ討議を行いました。

○ **UDとバリアフリーの違い**：UDは人を「高齢者」  
や「障害者」で分類しません。社会を構成して  
いる「すべての人のために」というのが原点です。

また、右図のとおり、バリアフリーは今ある障  
壁を取り除こうというマイナスからゼロへの発想  
であるのに対し、UDは最初から障壁を作らない  
ゼロから、より安全・安心・快適にしていこう  
というものです。



○ **UDの7原則**：UDを説明するものとして、次の7つの原則があります。

1. 公平性：誰にでも公平に利用できること
2. 柔軟性：使う上で自由度が高いこと
3. 単純性：使い方が簡単ですぐわかること
4. 認知性：必要な情報がすぐに理解できること
5. 許容性：ミスや危険につながらないこと
6. 効率性：無理のない姿勢、操作で利用できること
7. 広さ、サイズ：アクセスしやすいスペースを確保すること

この原則は米国において提唱されているものでUDの方向性を示すものです。日本においては、柔軟に適用していく必要があるということです。

○ **UDの先進事例**：UDによるまちづくりを進めている浜松市の取り組みが紹介されました。浜松市では、市長を本部長としたUD推進本部を設置し、UDを総合的・計画的に推進していくために「U・優プラン(浜松市UD計画)」を策定しました。さらに、「思いやりの心が結ぶ優しいまち」を目指し、「浜松市UD条例」を制定するなど、その先進的な取り組みは、全国の市町村がまちづくりを進めるにあたり、参考になる点が非常に多いと感じました。(＊詳しくは浜松市のHP参照)



○ **課題演習**：「地域のネットワークづくり～市民参画によるUDのまちづくりについて～」という課題が与えられ、他市町村の方々とグループ討議を行いましたので、その結果を簡単に紹介いたします。

■ 市民参画における問題点は、

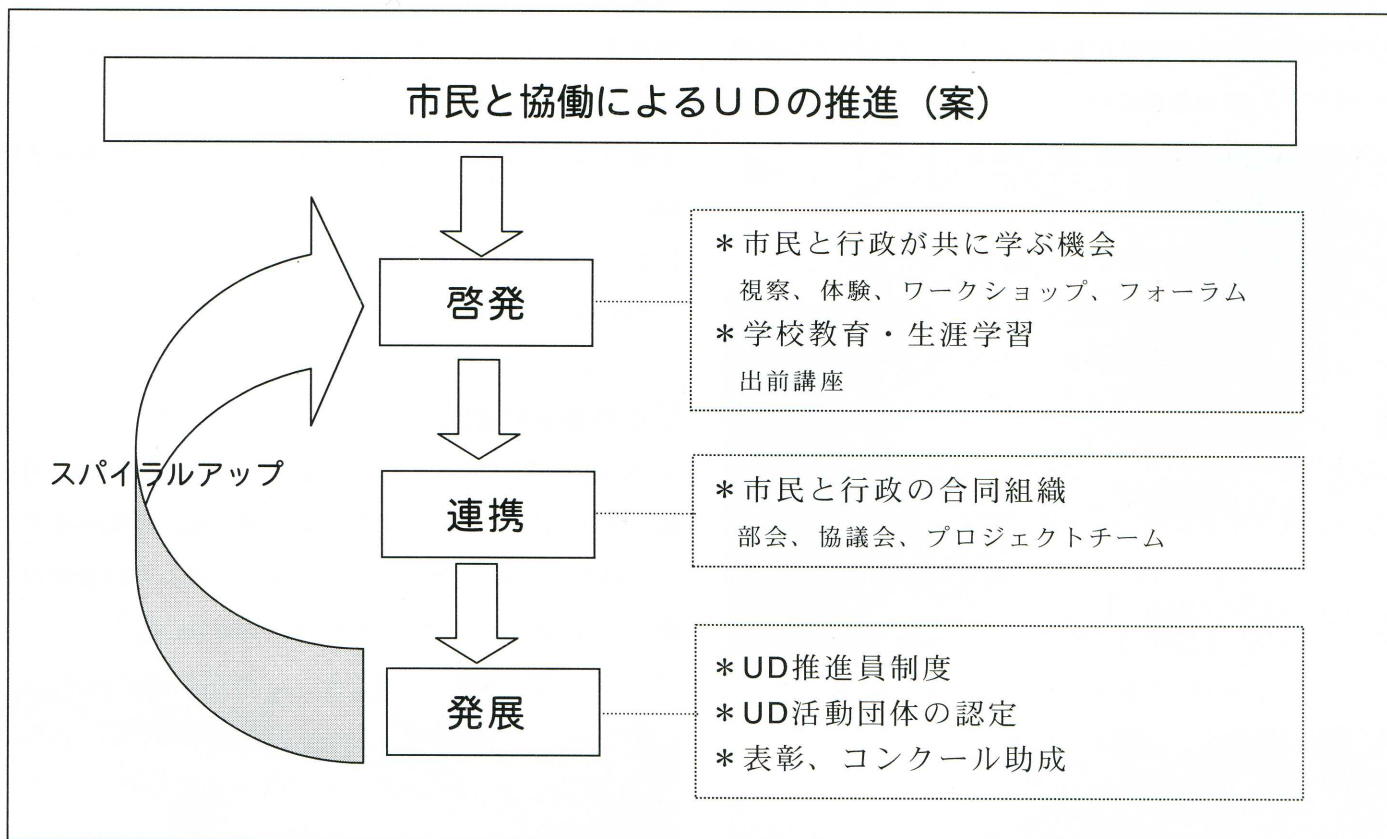
1. 市民・行政のUDに対する意識が低い
2. UDに関する情報の不足・学習の機会が少ない

3. 組織内外において連携が不十分

4. 継続性がない

ということがあげられました。

■ そこで、この問題点を解決し市民と行政の協働によるUDの推進を図るためには、まず市内のUD推進体制を整備すること。次に下図に示す、啓発⇒連携⇒発展という各段階において、市民と行政が共に学び、共に進めていく必要があると考えました。



さらに、これらの取り組みによる成果の評価を行い、その結果を以後の事業に反映させていく、スパイラルアップ（継続的改善）のプロセスを確立することも重要です。

本格的な少子高齢社会に備えるうえでも、これらの施策を展開し、市民協働で誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていく必要があるという結論に達しました。

\* 短期間の研修でしたが、UDの考え方や先進地の事例の紹介など、参考になる点が多く有意義な研修でした。県都市計画協会の皆様ありがとうございました。



【B班】

遠山（長野市）、会沢（日立市）、樋口（豊明市）、矢野（丸亀市）、後藤（富合町）  
伊藤（八尾市）  
原田（福山市）